

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年9月4日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	7月の価格情報		8月の価格情報		8月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( ) 内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の9月中旬までの見通し	「図の見方」					
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格					現時点の価格水準					
	下旬	上旬	中旬	旬別平均販売価額				平均価格	平均価格	平均価格			
葉茎菜類	キャベツ	74.19	55 (74%)	74.19 (78%)	58 (110%)	82	・9,833t (89%)	群馬(79)		群馬産は、8月中旬まで曇天、降雨が続いたものの、生育及び品質は概ね良好であることから、現在平年並みの出荷は、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		88.91	57 (65%)	88.91 (67%)	60 (99%)	88	・3,577t (83%)	群馬(72), 長野(27)		群馬産の出荷は平年並みと見込まれるが、野菜全体としては強持ち合いとなっていることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
	たまねぎ	93.34	77 (83%)	93.34 (86%)	80 (86%)	80	・3,549t (83%)	北海道(90)		北海道産は、一部ほ場で湿害の懸念があるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並の出荷の見込み。			
		93.34	72 (77%)	93.34 (86%)	80 (86%)	80	・1,879t (98%)	北海道(79), 兵庫(18)		北海道産の出荷は、引き続き平年並みと見込まれることから、7月から続く安値基調により、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	291 (101%)	287.00 (101%)	289 (144%)	414	・875t (64%)	青森(26), 秋田(20), 北海道(17)		青森産は、8月の降雨による収穫作業の遅れ等で出荷ペースが鈍かったものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、低温による生育遅れや降雨による収穫遅れはあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		487.13	264 (54%)	487.13 (65%)	317 (85%)	415	・137t (85%)	香川(25), 徳島(20), 三重(14), 大阪(10), 奈良(9)		青森産、秋田産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。			
	はくさい	58.82	59 (100%)	58.82 (98%)	81.96 (93%)	58	76 (89%)	・2,865t (89%)	長野(94)		長野産は、8月中旬までの降雨と気温の低下等で、肥大ベースが緩やかとなり、二期作の出荷もやや遅れているものの、最近の好天により生育も回復していることから、現在やや多めの出荷は、大きな天候のくずれがなければ、引き続きやや多めの出荷の見込み。		
		62.79	55 (88%)	62.79 (90%)	88.72 (83%)	56	74 (80%)	・1,725t (80%)	長野(100)		長野産の出荷がやや多めと見込まれることから、消費地の低温により一時的に引き合いが強まり、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。		
	ほうれんそう	583.95	605 (104%)	583.95 (134%)	781 (141%)	823	・322t (96%)	群馬(32), 栃木(22), 茨城(17)		群馬産及び栃木産は、8月の天候不順による生育不良から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、8月の曇天及び降雨により一部で品質にばらつきが見られるものの、影響は軽微なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		670.86	654 (98%)	670.86 (113%)	761 (127%)	851	・137t (75%)	岐阜(80), 北海道(8)		茨城産の出荷は、平年並みと見込まれるもの、群馬産及び栃木産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
	レタス(結球)	120.13	90 (75%)	158.27 (60%)	95 (67%)	105	・5,209t (89%)	長野(82)		長野産は、出荷終盤を迎えており、天候の回復に伴い、生育は概ね順調なことから、現在平年並みの出荷は、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		125.61	98 (78%)	152.57 (63%)	97 (69%)	106	・1,927t (104%)	長野(98)		長野産の出荷は、平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。			
果菜類	きゅうり	221.22	224 (101%)	221.22 (102%)	225 (128%)	283	・3,452t (75%)	福島(28), 群馬(12), 岩手(11), 埼玉(11)		福島産は、露地作の天候不順による生育遅れや生育不良等により、現在平年より少なめの出荷は、抑制制作の出荷に伴い、今後はやや少なめに回復する見込み。群馬産は、8月中旬までの低温、曇天による生育遅れにより、現在やや少なめの出荷は、天候次第だが、抑制制作の出荷増に伴い、今後は平年並みの出荷の見込み。岩手産は、8月の曇天、降雨による大きな影響はなく、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		232.80	202 (87%)	232.80 (90%)	210 (123%)	287	・1,115t (84%)	福島(32), 北海道(24), 群馬(10), 愛媛(9)		福島産の出荷がやや少なめに回復すると見込まれ、群馬産及び岩手産が平年並みに回復または平年並みと見込まれるもの、東北産及び後続産地である関東産の端境が発生していることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
	トマト(大玉)	252.46	226 (89%)	252.46 (97%)	246 (102%)	259	・4,903t (83%)	福島(18), 千葉(17), 青森(14), 北海道(14), 茨城(11)		福島産は、8月の曇天、降雨による生育不良や着色不足により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、8月の曇天により夏秋及び抑制制作とも生育遅れがみられ、現在は平年より少なめの出荷となっているものの、抑制制作の出荷増の見込みから、今後はやや少なめの出荷に回復する見込み。青森産は、日照不足による小玉傾向のため、箱数が伸びず、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。北海道産は、生育遅れや着色不良により、現在平年よりやや少なめの出荷は、天候次第だが、平年並の出荷に回復する見込み。			
		298.46	250 (84%)	298.46 (86%)	258 (91%)	272	・2,000t (82%)	北海道(34), 岐阜(31), 群馬(10), 岡山(8)		北海道産の出荷は平年並みに回復すると見込まれるもの、福島産、千葉産及び青森産の出荷が平年より少なめまたはやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
	なす	230.51	257 (112%)	230.51 (122%)	282 (117%)	271	・2,283t (80%)	栃木(31), 群馬(29), 茨城(20)		栃木産は、日照不足による生育不良でやや少なめの出荷となっているものの、8月下旬からの天候回復に伴い、今後は平年並みの見込み。群馬産は、8月の曇天による水腐れ等がみられることから、引き続きやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、8月の曇天、降雨の影響は軽微で、生育及び品質は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		232.81	260 (112%)	232.81 (113%)	263 (111%)	258	・947t (82%)	山梨(31), 徳島(17), 大阪(8), 奈良(8)		栃木産の出荷が平年並みに回復し、茨城産及び群馬産の出荷も平年並み又はやや少なめと見込まれるもの、秋商材としての需要が見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
	ビーマン	276.65	361 (130%)	263.58 (121%)	320 (137%)	362	・690t (65%)	茨城(43), 岩手(38)		茨城産は、一部で樹勢が弱いほ場があるものの、天候の回復により、今後は平年並みの出荷に回復する見込み。岩手産は、秋作(抑制制作)の出荷も順調なことから、現在平年並みの出荷は、今後は天候次第ではあるものの、やや多めの出荷の見込み。			
		293.32	286 (97%)	296.27 (94%)	279 (110%)	325	・298t (70%)	青森(26), 茨城(13), 兵庫(13), 大分(9)		茨城産の出荷は、平年並みに回復し、岩手産の出荷は、平年をやや上回ると見込まれるもの、市場における品薄感から、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
根菜類	だいこん	94.60	72 (76%)	94.60 (83%)	79 (90%)	85	・3,143t (102%)	北海道(59), 青森(36)		北海道産は、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、生育の遅れから、現在出荷は少なめとなっているものの、肥大が概ね順調なことから、今後はやや少なめの出荷に回復する見込み。			
		95.37	65 (68%)	95.37 (80%)	76 (86%)	82	・1,411t (104%)	北海道(64), 岐阜(11), 青森(11), 岩手(9)		北海道産の出荷が引き続き平年並みと見込まれ、青森産の出荷がやや少なめの出荷に回復すると見込まれるが、今後は需要期に入り引き合いが強まることから、現在平均を下回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。			
	にんじん	133.01	85 (64%)	123.08 (49%)	60 (50%)	62	・2,542t (80%)	北海道(90)		北海道産は、天候に恵まれ、道内主産地の生育は概ね順調なことから、引き続き多めの出荷の見込み。			
		132.62	80 (61%)	123.11 (44%)	54 (50%)	61	・1,030t (82%)	北海道(97)		北海道産の出荷が多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。			

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。  
 2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 3 単位は円/k g、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。  
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。  
 6 はくさいの平均価格は、上段が7月1～8月10日まで、下段は8月11日～10月15日までの価格である。

## 1 主要野菜の生産出荷状況

種類	7月の価格情報		8月の価格情報		8月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の9月中旬までの見通し		「図の見方」		
	(参考)保証基準額 の算定の基 となる平均 価格		指定野菜の関東・近畿 ブロック 旬別平均販売価額				平均価格水準		平均価格水準		
	下旬	上旬	中旬	現時点の価格水準	平均価格	平均価格(点線)					
いも類	さといも	361.20	334 (92%)	254.79 <b>476</b> (187%)	515 (202%)	・56t (64%)	千葉(71)		千葉産は、7月の干ばつ気味による小玉傾向により、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、8月の降雨により肥大が回復傾向であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。		
		347.90	318 (92%)	220.11 <b>367</b> (167%)	480 (218%)	・8t (56%)	宮崎(33), 愛媛(25), 大阪(13), 中国(13)		千葉産の出荷が平年並みに回復すると見込まれるもの、秋商材としての需要が見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、今後は平均並みに近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
	ばれいしょ	111.77	115 (103%)	111 (99%)	114 (102%)	・2,034t (77%)	北海道(96)		北海道産は、8月は曇天が続いているものの、影響は軽微で、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		111.77	111 (99%)	111.77 (90%)	100 (95%)	・1,160t (98%)	北海道(95)		北海道産の出荷が平年並みと見込まれるもの、販促による需要や学校給食需要が見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20~25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

## 1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	7月の価格情報		8月の価格情報		8月中旬の東京都及び大阪市の入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の9月中旬までの見通し		「図の見方」				
	(参考)過去5カ年 平均価格		(参考)過去5カ年 平均価格				平均価格水準		平均価格水準				
	東京都・大阪市の旬別価格	下旬	東京都・大阪市の旬別価格	上旬			現時点の価格水準	平均価格	平均価格(点線)				
洋菜類	ブロッコリー	371.41	371 (100%)	386.86 <b>436</b> (113%)	400 (103%)	・324t (101%)	北海道(52), 長野(26)		北海道産は、降雨や低温による生育遅れは回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。長野産は、降雨による生育遅れで出荷が遅れ気味であるものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。				
		390.83	407 (104%)	404.47 <b>440</b> (109%)	466 (115%)	・125t (121%)	北海道(46), 長野(28)		北海道産及び長野産の出荷が平年並みと見込まれるもの、需要は堅調なことから、8月下旬以降上げ基調となっている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。				
	ごぼう	325.94	416 (128%)	295.61 (123%)	427 (144%)	・113t (98%)	青森(45), 茨城(14), 群馬(11)		青森産は、好天により肥大も良好で、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、播種期の強風による倒伏で一部作付減のほ場があるものの、肥大は良好で前進気味の出荷となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、肥大は良好なもの、播種期の多雨の影響がみられる事から、引き続き少なめの出荷の見込み。				
		214.56	227 (106%)	173.09 (123%)	213 <b>318</b> (184%)	・34t (50%)	茨城(25), 青森(22), 群馬(16), 北海道(15)		青森産、茨城産及び群馬産の出荷は、現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。				
果菜類	かぼちゃ	212.02	230 (108%)	175.73 (145%)	255 (142%)	・733t (84%)	北海道(94)		北海道産は、4月中旬から6月の低温の影響で、一部のほ場に生育遅れがみられるものの、総じて生育は概ね順調で、大玉中心が多くなっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。				
		152.57	172 (113%)	157.90 (125%)	198 (137%)	・212t (78%)	北海道(80)		北海道産の出荷は、現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。				

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成24~28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。

3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。

## 2 野菜の輸入動向 一 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について 一

○輸入について		野菜の輸入数量		野菜の輸出数量		主な生鮮野菜の輸出先(平成29年7月)	
		野菜全体の輸入量(平成29年7月)		野菜全体の輸出量(平成29年7月)		(単位:トン、%)	
		区分	平成27年 前年比	平成28年 前年比	平成29年7月 前年同月比	平成29年1~7月 前年同期比	
貿易統計によると、平成29年7月の生鮮野菜の輸入量は、この時期に輸入が増えるたまねぎ、にんじん等の国産の作況が良かったこともあり、6万トン（前年同月比85%）にとどまった。また、輸入量の多い加工野菜は、16万8千トン（同108%）と前年をかなりの程度上回り、野菜全体では、22万8千トン（同101%）とわずかに増加した。	野菜全体の輸入量(平成29年7月)	生鮮野菜	826,845 93	862,416 104	60,188 <b>85</b>	553,264 112	(単位:トン、%)
このうち、中国産の輸入数量は合計で、11万トン（同94%）と、輸入量の48%を占めた。		加工野菜	1,752,337 98	1,768,892 101	168,253 <b>108</b>	1,107,701 109	
○輸出について		野菜合計	2,579,182 97	2,631,308 102	228,441 <b>101</b>	1,660,964 110	
7月の輸出量は、野菜全体では2012トンと、前年同月をかなりの程度上回った（前年同月比109%）。これは、加工野菜が1010トン（同111%）と前年同月をかなり大きく上回ったためである。		うち中国産野菜合計	1,355,491 96	1,365,785 101	110,387 <b>94</b>	819,552 112	
輸出量が前年を大幅に上回ったキャベツ等（ブロッコリー、はくさいを含む）については、7月の台湾への主たる輸出国の主産地の天候不順により、国産の引合いが強まつたことから、増加したとみられる。		中国産シェア	53	52	48	49	
主な生鮮野菜の輸入先(平成29年7月)		野菜全体の輸入量(平成28年7月)		野菜全体の輸出量(平成28年7月)		(単位:トン、%)	
		輸入合計	1位 前年比	2位 前年比	3位 前年比		
○輸出合計		22,992 240	31,867 139	1,002 108	6,089 31		
野菜合計		9,510 121	11,101 117	1,010 111	5,716 101		
野菜合計		32,502 186	42,968 132	2,012 109	11,806 47		
同 (平成28年7月)		野菜全体の輸入量(平成27年7月)		野菜全体の輸出量(平成27年7月)		(単位:トン、%)	
		輸入合計	1位 国名 前年比	2位 国名 前年比	3位 国名 前年比		
野菜合計		510 275	米国 181	台湾 121	シンガポール 51		
野菜合計		132 65	香港 36	台湾 26	シンガポール 21		
野菜合計		102 58	タイ 17	台湾 17	インドネシア 11		
同 (平成27年7月)		野菜全体の輸入量(平成26年7月)					